暮らしのぞき箱

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第九二号〜

寒露（かんろ）　十月八日

五十鈴りんりん会

秋を感じさせる虫の音、今年もおかげ横丁の各店舗に鈴虫籠（かご）が置かれました。りーんりーんという鈴を振ったような澄んだ音色に耳をそばだてると、また夜の草むらから響いてくる虫の音とは違った風情があります。

実はこの鈴虫、宇治地区にゆかりがあることを知りました。なんでも五十年ほど前に有志の方たちで作った「宇治りんりん會（かい）」という鈴虫の愛好会があり、その会員の方が育てていた鈴虫を受け継ぎ、去年七月に「五十鈴りんりん会」と改名して、おかげ横丁の伊勢路栽苑で育てるようになったというのです。

鈴虫は、六月に卵からかえった蟻（あり）ほどの小さな幼虫が、五、六回の脱皮を繰り返して十七ミリ前後の成虫になり、お盆過ぎあたりから鳴き始めます。そして卵を残し、十月の中ごろには死に絶えてしまいます。鈴虫の世話をする方に聞くと、「鈴虫は土の中に卵を産むので、籠の中に置いてある石や草、エサなどをどけて、土に二日に一回、霧吹きで水をやります。冬はそのままにして、春になるとまた水やりをして、六月の孵化（ふか）の時期を迎えます。そうなると、毎日観察をして、ナスなどの夏野菜やカツオ節の削り粉のエサをやり始めます」とのことでした。草むらの虫はなにも手を加えなくても毎年鳴きますが、飼育となると案外、手間がかかることなのですね。その分、興味がわいて、かわいく感じることなのでしょう。

鈴虫籠は、おかげ横丁の二十二店舗のほかに郵便局、百五銀行にも置かれました。五十鈴川の鈴のような川音が響く宇治の町で、鈴虫の音色を聞けるのもまた一興です。来年も町のあちらこちらに鈴虫籠が置かれ、音色が聞かれることでしょう。

文　千種清美

おかげ横丁　伊勢内宮前